校長室からこんにちは

令和５年２月６日（火）

いつからだろう　雪を疎（うと）ましく思うようになったのは

朝、地域の方が雪かきをしてくださった横断歩道や、教員や校舎管理補助員さんが雪かきしたところを、笑顔で登校してくる子供たち。昨年のことを覚えているのか、何やら期待のまなざしで、私を見てきます。（わかっていますよ、皆が私に何を言いたいのか）欠席の子が多い中、朝の健康観察を確認し、中休みの始まる数分前に携帯のタイマーをセット。２時間目終了と同時に放送開始！「どうぞ遊んでください」と言うと、校内割れんばかりの大歓声。校庭に飛び出してくる子供たちは、皆嬉々とした表情。校庭はというと、わずか数分であっという間にその姿を変えました。

子供たちが冷たい冷たいと言いながらも笑顔で楽しそうにしている表情を見ていると、いつも思うことがあります。雪が降ったら、あれやこれやとマイナス思考にならず、ワクワクしている子供たち。私より、ずっとずっと幸せそうだなと。いつからでしょうか、雪が降るのを疎ましく思うようになったのは。大人になる過程の経験値がそうさせるのだとしたら、せめて目の前の子供たちには、今しか感じられない楽しさを経験させてあげたいと思いまよね？

昨日の全校朝礼で、「雪が降るから靴下の替えをもってくるんだよ」と話しましたが、持ってこない子もいたようです。びしょびしょの靴下を絞りながらも、笑顔でいられる・・・大人になるまでの経験値が邪念を身に着けさせるのであれば、子供は、まさに邪気がない「無邪気」。この言葉には、大変な意味があると再認識しました。教室に戻る子供たちが、ベランダから見ている私に手を振ってくれる表情を見ていると、ドロドロにぬかるんだ校庭の今後を考えている自分に、「それが邪推というのでは？」と自問自答。結果、「これでいいんだ」と、自分を納得させながら長室に戻りました。

雪だるま　明日までとけずにいてくれるかな

靴下しぼる　次はいつかな？